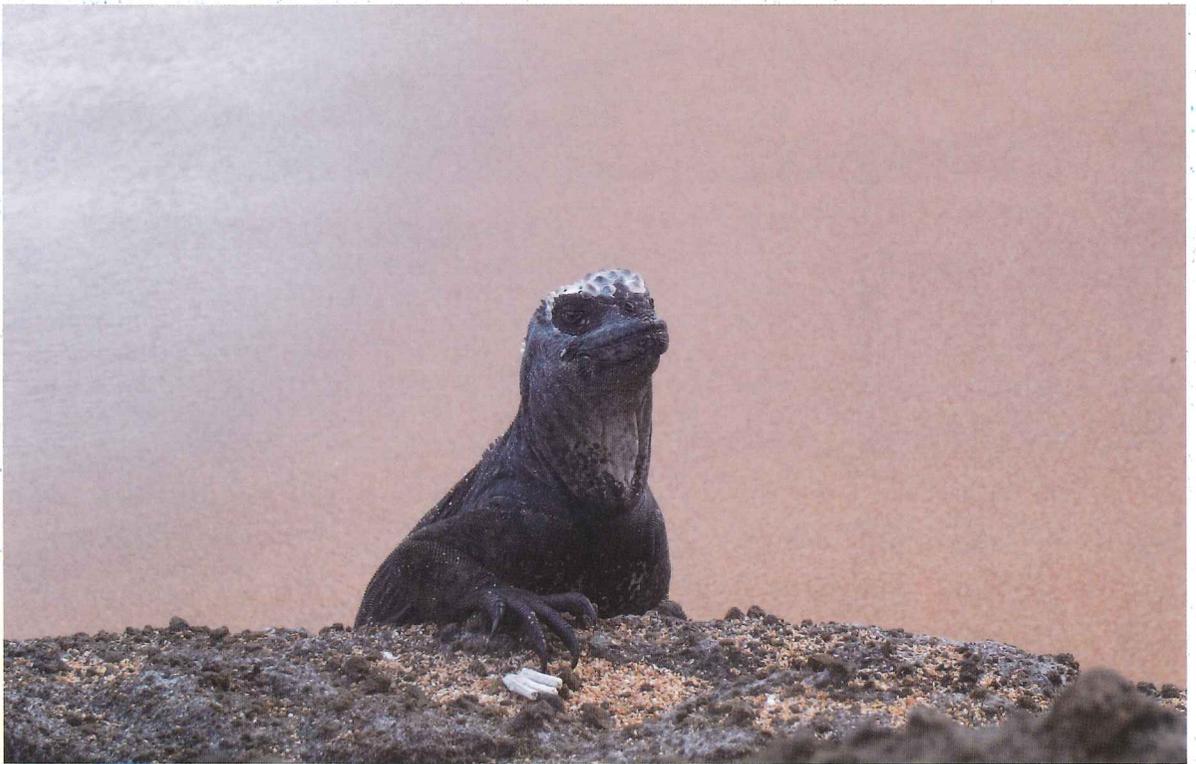




# 第 299 号



- 国内処理施設見学研修会 「富山市エコタウン」を訪問
- 全産廃連 第5回定時総会開催される
- 多摩支部だより 多摩支部研修会を盛大に開催
- 安全衛生研修会 デジタコ・ドラレコの活用法



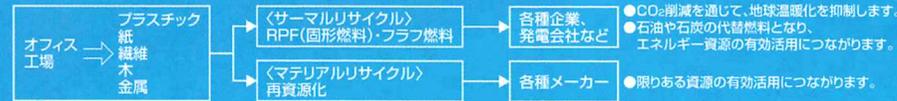
# 有明興業は、 未来のエネルギーを創造します。



リサイクルを考える時代から、  
リサイクルの品質を選ぶ未来へ。

廃棄物から地球にやさしい燃料をつくっています。

これらは今、次世代エネルギーとして、製造工場や発電施設などで活用されています。



陸送に比べてCO<sub>2</sub>排出量の少ない船舶輸送を推進しています。

東京港に面する若洲工場とリサイクルポートでは、2,000トン級の船舶が接岸できるプライベートバースを活用し、全国各地から廃棄物を受け入れ、製品出荷体制を整えています。



2011年度収集運搬業(積替え保管を除く) 中間処理業 優良産廃処理業者認定制度

産廃エキスパート 認定番号 2-11-A0012 認定番号 2-11-C0012

優良認定業者 ありあけこうぎょう 株式会社 <http://www.aknet.co.jp/>

有明興業株式会社 ARIAKE KOUGYO CO.,LTD. 〒1136-0083 東京都江東区豊洲2-6-25 TEL.03-3522-1911 FAX.03-3522-1919

ISO 14001 JAB EMS Accreditation RE006

## リサイクル&クリーン事業の 安心・安全・快適 をサポート

### トータルリサイクル施設 三凌愛川リサイクルセンター



堆肥化処理プラント



選別処理プラント



汚泥処理プラント



剪定枝処理プラント

三凌愛川リサイクルセンターは、廃棄物に応じて4つのプラントでリサイクルをおこなう処理施設です。

堆肥化処理プラント・・・動植物性残さ、木くずを堆肥化

選別処理プラント・・・廃棄物7品目の機械選別をおこない再資源化

汚泥処理プラント・・・汚泥の減容化と路盤材の原料化

剪定枝処理プラント・・・剪定枝のチップ化をおこない再資源化



JQA-EM0918

RE006

優良産廃処理業者 認定取得  
全工場 ISO14001 認証取得



### かながわりサイクル認定製品「サンリョウ有機」

食品残さと剪定枝のオガ屑由来の堆肥を販売して以来15年以上、生産農家の皆様より安心安全の信頼を築いて参りました。

2015年度 収集運搬業 (積替え保管を除く) 産廃エキスパート 認定番号 3-14-A0030

エコアクション21 認証・登録番号 0003648

### 株式会社 三凌商事

〒194-0036 東京都町田市木曽東1-34-6 TEL 042-726-2647  
支社 横浜 川崎 相模原 厚木 愛川 FAX 042-727-6743  
SANRYO ホームページアドレス <http://www.tyo-sanryo.co.jp>

[27年度国内処理施設見学研修会] 「富山市エコタウン」を訪問 RPF製造の(株)エコ・マインドと廃棄物発電の(株)アイザックを見学	2
[全産廃連] 第5回定時総会開催される 27年度表彰では当協会から3社と16名が受賞	6
[多摩支部だより] 多摩支部研修会を盛大に開催	12
[安全衛生研修会] デジタコ・ドラレコの活用法	14
[青年部だより] 第3回定時総会で平成26年度事業・決算を承認 NEWS5、研修会「営業の見える化で経営改革を」を開催	16
[女性部だより] 「2015 NEW環境展」活動報告	18
***** 委員会報告(収集運搬委員会・法制度検討委員会)	11
講師余談・古代史散歩	20
投稿・TTT会 2015五島長崎 国際トライアスロン大会	22
寄稿 年々ひどくなる日中の暑さ! 当社の熱中症対策について 加藤商事(株)	24
身近な「ヒヤリ・ハット」事例 Part88	25
会員情報	26
協会の主な今後の日程	27
事務局だより・編集後記	28
表紙の言葉	27

[27年度国内処理施設見学研修会]

## 「富山市エコタウン」を訪問

RPF製造の(株)エコ・マインドと廃棄物発電の(株)アイザックを見学

東京都産業廃棄物協会は、6月5日(金)～6日(土)の2日にわたり平成27年度国内処理施設見学研修会を実施した。今回は、本年3月に開業したばかりの北陸新幹線を利用し、富山・石川両県を訪れた。初日は、廃棄物リサイクル7社が集まる富山市エコタウンを見学した後、和倉温泉に宿泊、2日目は金沢市へ移動し、兼六園を中心に観光した。参加者は事務局を含め計38名であった。(取材 塩沢美樹)



エコ・マインドにて

### ■技術の粋を集めた最新新幹線

東京駅9時32分発の北陸新幹線「かがやき」車内で集合した一行は、11時46分に富山駅に到着した。東京-富山間をわずか2時間8分で結ぶ最新の新幹線は、「ワンモーションライン」と呼ばれる先頭の形状と、特殊なパンタグラフが騒音を抑制し、乗り心地やブレーキ性能も向上。1kmで高低差が30mを越えるかなりの勾配もあるが、揺れも振動もまったく気にならなかった。座席には可動式の枕

と、新幹線で初めて全席に設置された電源コンセント、デッキには電動車いすにも対応可能なゆったりした化粧室もあり、快適に過ごすことができた。

富山駅に到着し、昼食をすませた後、専用バスで早速、見学先の「富山市エコタウン」へ向った。気温は23℃、天候はあいにくの曇りで、時折小雨がぱらついたが、夏日が続いていた東京に比べると過ごしやすと感じた。

### ■富山市エコタウン



説明を聴く参加者

まず「富山市エコタウン交流推進センター」会議室で、施設の概要についてビデオ映像と資料を元に説明を受けた。同センターは、市民・事業者・行政が一体となってめざす「循環型のまちづくり」を推進するための、学習と活動の拠点施設で、エコタウンで製造された製品や富山県リサイクル認定品、エコマーク商品等の展示スペースも設けられている。

「富山市エコタウン」は、平成9年に創設された国のエコタウン制度により、平成14年に全国で16番目に承認された。富山地区には、プラスチック加工業や石油関連企業、アルミ製造業などの産業が多く立地し、これらの産業の原料として再生品の需要が多く見込める環境がある。このため、富山市エコタウンでは、回収した資源が地域内で循環利用されるよう、リサイクル施設の整備を推進し、現在7社が稼働している。また、富山市では、公共部門から率先してグリーン調達を推進し、民間事業者などに拡大するなどの支援を行っているという。

今回は、エコタウン内の2社を見学した。(株)エコ・マインドでは同社部長の案内により処理施設内を視察、(株)アイザ

ック環境事業本部エネルギーセンターでは、バスの車内から、交流推進センター職員により各設備の案内を受けた。

### 【各社概要】(順不同)

- ①(株)プリテック：ハイブリッド型廃プラスチックリサイクル施設。容り法に基づき自治体が分別回収したプラスチック製容器包装と、事業所から排出される廃プラスチックを、プラスチック原材料や燃料油に再生している。マテリアルリサイクルと油化という2つの手法を併せ持つ全国初のハイブリッド型廃プラリサイクル事業が特徴。
- ②アイオーティカーボン(株)：木質系廃棄物リサイクル施設。廃木材の炭化及び木炭ボードの製造を行う。主に、建設廃材や家庭からの伐採樹木、製材産業の廃木材、工場等の廃パレットを受け入れ、利用先事業者と連携して、建材・水質浄化材・土壌改良剤等に再生している。
- ③富山グリーンフードリサイクル(株)：生ゴミ及び剪定枝のリサイクル施設。食品廃棄物をメタン発酵処理し、発生したバイオガスを回収・利用すると同時に発酵廃液を剪定枝刈草等の堆肥化処



センター内の展示室

理施設に供給し、発酵促進剤として有効利用している。

④日本オートリサイクル(株)：自動車リサイクル施設。使用済自動車を環境に配慮して解体し、資源物を可能な限り回収する。特に外装・内装プラスチック類を効率よく回収し、シュレッターレス化及びリサイクル率の向上を図っている。

⑤(株)エコ・マインド：廃タイヤをタイヤチップ燃料に、また廃プラ・繊維・古紙等やその複合廃棄物から固形燃料(RPF)を製造し、県内製紙メーカー等へ出荷することで廃棄物の地域内循環を実現。

⑥富山BDF(株)：廃食用油リサイクル施設。小中学校や食料品製造工場、飲食店等の廃食用油からバイオディーゼル燃料を製造し、市の清掃車・運送事業の車両に軽油代替燃料として供給している。

⑦(株)アイザック 環境事業本部エネルギーセンター：廃棄物エネルギーリサイクル施設。処理困難物やマテリアルリサイクルに適さないものを焼却し、発生する熱エネルギーを利用して発電や温水利用を行っている。ドラム缶に



センター正面玄関にて

入った可燃性の高い廃棄物等は、ドラム缶ごと破碎し、焼却炉に投入することが可能。

\* \* \*

施設見学研修を終え、宿泊先である和倉温泉「のと楽」(石川県七尾市)に向かった。七尾湾に面して眺望はすばらしく、広々とした温泉浴場と郷土料理の数々を満喫することができた。

### ■砂浜ドライブと金沢観光

研修2日目は、8時30分に宿を出発し、バスで一路、金沢へ向った。途中、日本



外国から流れ着いた大きな浮き

で唯一、砂浜を走行できる「千里浜なぎさドライブウェイ」で波打ち際を走るといふ貴重な経験も。能登半島西部・石川県羽咋市に位置し、8kmの海岸線を持つ千里浜の名の由来は、一説によると、大昔から日本海を渡って様々な「ちり」が流れ着くからだそうだ。レストハウスの一角には、外国語が印字された大きな浮きが展示されていた。

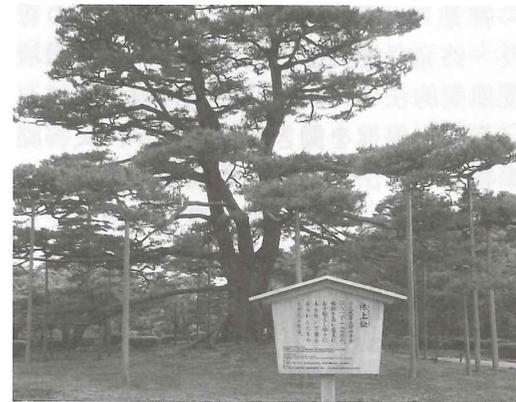
10時30分、日本三名園の一つ「兼六園」(石川県金沢市)に到着した。

兼六園は、加賀歴代藩主が神仙思想に基づいて作庭した江戸時代の代表的な大名庭園だ。大きな池を穿<sup>うが</sup>って大海に見立



兼六園・霞ヶ池前にて

て、その中に不老不死の仙人が住むと言われる島を配し、長寿と永劫の繁栄を庭園に投影したといわれる。



名前にあやかりたい「根上松」

折しも金沢市内は、この日から2日間にわたって行われる『金沢百万石祭り』のため、大いに沸いていた。兼六園にも大勢の観光客が訪れており、世界各国の国旗を掲げる添乗員を先頭に、いくつもの団体が名所見物の順番待ちをする状態であった。我々一行も、はぐれないよう園内ガイドの後に列をつくり、徽軫灯籠(ことじとうろう)や、大小40数本もの

根が地上2mにまでせり上がった奇観を見せる「根上松(ねあがりのまつ)」、日本最古といわれる噴水などの見どころを巡った。

昼食をすませ、「近江町市場」でゆっくりと土産選びの時間を過ごした後、百万石行列の準備で賑わう金沢駅に到着した。武士や奴に扮した市民と記念写真を撮るなど、祭りの雰囲気を楽しみながら、祭りに向かう人の波に後ろ髪をひかれながら、我々は、14時16分発の新幹線で帰途についた。



金沢駅にて・武将に扮した行列参加者と

【全産廃連】

## 第5回定時総会開催される 27年度表彰では当協会から3社と16名が受賞

公益社団法人全国産業廃棄物連合会は、平成27年6月12日(金)13時30分より、明治記念館(港区元赤坂)「蓬萊の間」に於いて、第5回定時総会を開き、平成26年度事業・決算報告及び役員補充選任の件について決議された。今年度の表彰では功労者・地方功労者・地方優良事業所・優良従事者の各賞に当協会から3社と16名が受賞した。16時30分からは『はとバス再建から得た教訓』をテーマに、(株)はとバス・元社長の宮端清次氏による講演会が行われた。(取材 塩沢美樹)

### ■会長挨拶



石井会長

総会は定刻に開始され、まず、石井会長が来賓と出席者に対し謝意を述べた後、次のとおり挨拶した。

「今回の総会は、当連合会が法人化30周年を迎える年に開催する総会です。本日このように総会を開催できたことは、ひとえに皆さま方のひとかたならぬご支援の賜物と心より感謝を申し上げます。

さて、公益社団法人はその名称のとおり、広く社会一般の利益を追求し、その利益の増進のために活動する組織です。このような組織にふさわしい事業を行うことが第一の使命とされております。この考え方に則りまして、平成26年度は公益法人改革に係る法律制度を遵守する組織運営を行いつつ、当連合会が組織の目

的として掲げております公益事業、具体的には適正処理、地球温暖化対策、人材及び優良事業者の育成、この3本の柱の事業を展開してまいりました。

具体的な事業をいくつかご紹介しますと、まず1つ目の柱であります適正処理の推進は、マニフェストシステムの普及・啓発や優良認定制度に係る環境配慮契約法の、国及び独立行政法人における導入促進を働きかけたほか、災害廃棄物処理の法制度化への取組みを行いました。特に、災害廃棄物対策の法制度化につきましては、災害廃棄物対策委員会での長期にわたる検討の成果を引き継ぎ、法制度対策委員会を中心に連合会意見書を取りまとめて環境省に提出するなど、



総会会場

今通常国会に提出されました廃棄物処理法及び災害対策基本法の一部改正に、業界意見を相当程度反映できたものと考えております。

次に、2つ目の柱をなります地球温暖化対策では、同対策を当連合会における重要課題のひとつに位置付け、実態調査や正会員協会及び会員事業者への情報提供等を行いました。また、環境自主行動計画の終了に伴い、自主計画となる低炭素社会実行計画の内容を検討し、計画案を作成いたしました。同計画案につきましては、5月の理事会におきまして承認されたところです。

最後の3つ目の柱であります人材及び優良事業者の育成につきましては、産業廃棄物処理業実務者研修会など、人材育成のための各種研修事業を着実に実施してまいりました。このほか、資源循環を担う業界の将来を見据え、業法を含めた振興法のあり方を議論するために、法制度対策委員会のもとにタスクフォースを設置しました。タスクフォースは平成27年度も継続しておりますが、目下、提言書のとりまとめに向けた議論を進めております。

正会員の皆さまには、これから平成26年度の事業報告ならびに決算案等の議案事項に係るご審議をお願いすることとしております。議案の審議の終了後には、平成27年度の事業計画及び予算についてもご報告させていただき、その後、第二部として表彰式を取り行う予定でございます。これから長時間の総会になると存じますが、何とぞ慎重審議をお願い申し上げますとともに、皆さまのご協力を賜り総会が無事終了しますことをお願い申し上げます。簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。」

### ■来賓挨拶

衆議院議員・産業資源循環議員連盟会長  
丹羽 雄哉 氏



ただいまご紹介いただきました自由民主党の丹羽雄哉でございます。産業資源循環議員連盟、ちょっと難しい名前ですが、私どもは「リサイクル議連」と呼んでおります。本日は全産廃連の石井会長をはじめ、全国からお集りの皆さま方と親しくお目にかかる機会を得まして、大変嬉しく思っております。

さて、いま東京を中心とする首都圏では、オリンピック・パラリンピックがあと5年後に迫りまして、建設ラッシュが続いているわけです。そういう中で、建設資材をどう処理するかということが、大変大きな問題です。再生資材の優先的な取組み、あるいは再生資材の保管場所をきちんと確保しなければ、一見華やかなオリンピック・パラリンピックの裏で、こういう大変大きな問題があるということ、皆さん方は十分ご理解いただいていると思いますが、国民ひとりひとりが理解しなければならぬと考えております。この問題についても、国としてもしっかりと取り組んでいきたいという決意を新たにしている次第です。

首都直下型地震、あるいは南海トラフ巨大地震が30年以内に、かなり高い確率で発生するのではないかとわれています。南海トラフ巨大地震は、東日本大震災の10倍の廃棄物を排出するということ

でございますので、これまでのような仕組みの延長線上ではとても考えられません。私どもは、抜本的にこの問題について新たな仕組みを、いまのうちからしっかりと検討していかなければならないと考えております。

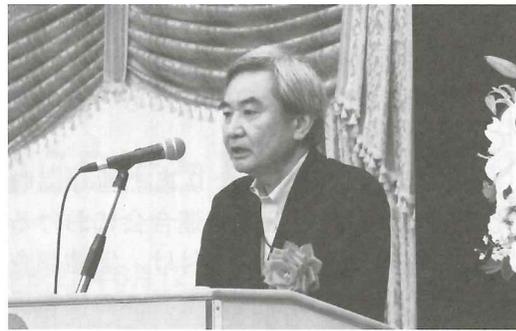
いずれにいたしましても、さきほど申し上げましたオリンピック・パラリンピックの問題、あるいは最近は様々なかたちで災害が起きているわけです。皆さま方の役割は、ますます重要になってくるわけです。そういう意味で、大変やりがいのあるお仕事ではないかと考えております。ちょっとお聞きしたところによりますと、優良認定事業者というのは829ということでございます。率直に申し上げて、寂しいなという感じがします。あの有名な豊島事件、悪貨が良貨を駆逐する、こういうことを二度と引き起こしてはなりません。私どもは、優良な事業者が積極的にお仕事できるような環境づくりが最大の目的であるわけです。どうぞ、会員の皆さま方においては、十二分にご理解いただきまして、これから自信と誇りを持って、産廃業界がさらに発展していくよう、私どもも全力でご支援を申し上げますので、皆さま方のいっそうのご指導ご鞭撻を心からお願い申し上げます、ひとことお祝いのご挨拶にかえさせていただきます。

#### 環境省大臣官房 廃棄物リサイクル対策部

部長 鎌形 浩史 氏

本日ご参集の全国産業廃棄物連合会の皆さまにおかれましては、平素から循環型社会の構築に向けて、ご尽力、ご貢献いただいております。この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。

私どもが携わっております廃棄物行政



の課題の中で、特に震災で発生した大量の災害廃棄物のがれきにつきましては、皆さまの多大なご協力もいただきまして、福島県の一部地域を除いて今年の3月までに終了したところ。産業廃棄物処理業者の皆さまには、これまでの協力を改めて感謝申し上げます。

環境省といたしましても、東日本大震災の教訓を踏まえ、今後の大規模災害の発生に備えて、法案を国会に提出しております。廃棄物処理法及び災害対策基本法の一部改正案ということ。法案では皆さま方からいただいた貴重なご意見を踏まえ、災害発生時における国、地方公共団体、事業者の間の連携・協力、そして災害時における廃棄物処理施設の新設・活用についての特例措置といったものを規定しています。この法案は、昨日、衆議院の本会議で可決され、参議院に送られました。今日は午前中、参議院の本会議で環境大臣から主旨説明をさせていただきます、質疑が行われたところ。引き続き参議院での審議が行われるということ。

いずれにしましても、災害廃棄物処理は災害被災地の復旧・復興の大前提です。今後も是非ご協力をたまわれればと考えているところです。

また、産業廃棄物処理業は、経済の静脈を担う重要な産業であるだけでなく、地方の雇用を創り出し、新たな循環ビジ

ネスを生み出す、地方創生を進める上で最も有効な産業のひとつというふうに考えています。環境省といたしましても、産業廃棄物処理業の更なる振興、高度化に向けた施策を進めていくために、本年度新たな予算を確保しております。皆さまのご意見もおうかがいしながら、廃棄物処理業が環境産業としてさらに発展できるように、振興ビジョンの策定などにしっかり取り組んでまいりたいと考えております。

産業廃棄物処理業の振興をさらに進めていくうえで、地球温暖化対策もきわめて重要であると考えています。温暖化対策に関しましては、我が国として、2030年までに26%削減という新たな目標の約束草案を先般とりまとめたところ。この目標に達するためには、我が国が世界に誇る環境・省エネ技術を総動員することが必要です。こうした中で、この5月に、全産廃連におかれまして低炭素社会実行計画をとりまとめたいただきました。深く感謝申し上げます。この実行計画に基づく更なる取組みに期待するとともに、廃棄物発電の推進等について、環境省といたしましても、皆さまの積極的な取組みを、最大限支援していきたいと考えているところです。

最後になりましたが、全産廃連及び各都道府県協会のますますのご発展と、産業廃棄物処理に取り組んでおられる事業者の皆さま、そしてそのご家族の皆さま方のご健康とご多幸を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

\* \* \*

来賓の挨拶に続き、総会の議案審議が行われた。はじめに事務局より正会員の出席状況について、定款第19条の規定に基づく定足数を充足し、本総会が有効に成立したことが報告された。石井会長の

指名により、小田島繁信氏（一般社団法人新潟県産業廃棄物協会会長）が議長に就任し、議長が議事録署名人を指名した後、第1号議案の平成26年度事業報告並びに決算案について審議され、満場異議なく承認可決された。続いて、第2号議案の役員補充選任の件につき、理事候補者1名が議場に諮られ、満場一致で原案通り承認可決された。

続いて、平成27年度事業計画及び収支予算に関する件について、資料に基づき説明が行なわれ、総会議事を全て終了した。

#### ■表彰式

総会終了後に行われた表彰式では、当協会から功労者1名、地方功労者3名、地方優良事業所3社、優良従事者12名が受賞した。受賞者の方々は10頁のとおり。

#### ■講演会

16時30分から、『はとバス再建から得た教訓～私の実践的企業経営論～』のテーマで講演会が行われた。講師の宮端清次氏は、倒産寸前のはとバス社長に就任し、同社をV字回復させることに成功した。その経験から「再建は1年目が勝負」「なら・しか経営」など、独自の経営手法が語られた。社長以下全社員の賃金カットを断行する一方、社長専用車を止めて電車通勤を実践、また、社長や役員が自腹ではとバスに乗り、顧客の目線で自社のサービスを体験するなど、トップの率先垂範で社員の意識改革を推進した。どんな業態であっても、企業が持続的・安定的に発展するためには、3つのポイントがあるという。①顧客に選んでもらえるか（「〇〇なら安心して取引できる、〇〇しか仕事を頼みたくない」）、②（売上ではなく）利益を確保できる料金をもらえるか、③顧客に“ありがとう”と言ってもらえるか、である。「はとバ

スは“運送業”ではなくお客様の思い出を製造販売する“感動製造業”である」との

言葉が印象的で、サービス業のあり方を改めて考えさせられる講演であった。

### 平成27年度表彰受賞者

(順不同・敬称略)

<功労者表彰> 計25名(当協会から1名)

加藤商事(株)代表取締役 加藤 宣行

<地方功労者表彰> 計71名(当協会から3名)

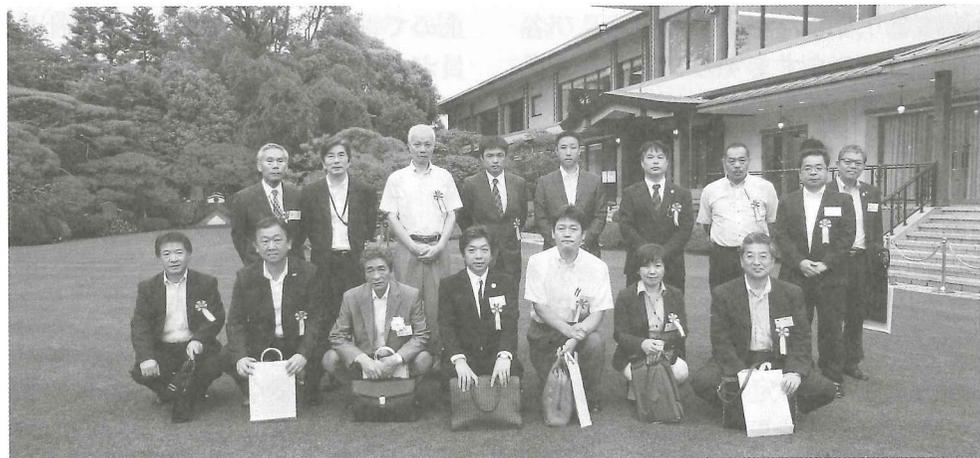
(株)エコ・ファクトリー代表取締役 有田 一成 (株)スリーシープランニング代表取締役 山下 智栄子  
ムゲンシステム(株)代表取締役 伊藤 彰

<地方優良事業所表彰> 計114事業所(当協会から3社)

(株)シンシア (株)西商店 (株)アール・イー・ハヤシ

<優良従事者表彰> 計138名(当協会から12名)

中央通運(株) 戸谷 武久	(株)共同土木 森屋 武志
相田化学工業(株) 中谷 義幸	(株)ハチオウ 勝田 陽介
エコシステムジャパン(株) 葉梨 唯彦	品川運輸(株) 中林 信隆
(株)北陸産業 城間 盛忠	(株)東亜オイル興業所 高橋 吉一
(株)市川環境エンジニアリング 阿部 時夫	アサヒプリテック(株) 難波 和寿
(株)ティーエムハンズ 設楽 修	(株)京葉興業 望月 孝一



高橋会長を囲んで受賞された方々

## 委員会報告



### 収集運搬委員会(加藤委員長)

平成27年6月24日(水)15時半より8名の委員によって開催した。

5月の理事会にて、新委員長に加藤氏が委嘱され、本日、委員長より白井氏が副委員長に委嘱された。

議題として、「業許可の広域化のあり方」について、及び「欠格要件」について意見を聞いた。業許可の広域化については、コスト負担の面から希望する意見もあるが、慎重な意見もあった。

欠格要件については、道路交通法違反の罰金刑があることについて意見を聞いた。委員長から、今後、議論を継続し全産廃連への意見提供をしていきたい旨の話があった。

法制度検討委員会で議論している「行政への再委託への提言」については白井副委員長から意見交換内容について報告があった。

次回は、平成27年9月3日(木)15時30分から開催する。

### 法制度検討委員会(篠原委員長)

平成27年6月25日(木)15時より、9名の委員とオブザーバー1名(当協会顧問弁護士 芝田麻里氏)によって開催した。

今回は、予定をしていた議題を変更し、全産廃連に提出する「廃棄物処理法見直しに関する意見」について検討した。各委員等から寄せられた意見について論議し、東産協として提言すべき内容を明確にした。今回の検討内容を元に、事務局で加筆修正することとなった。

なお、次回委員会は7月開催を予定している。議題は、今回検討予定であった①再委託の条件付き緩和の検討(東京都との意見交換会の結果報告)、②マニフェストに絡む現場の問題点討議(Q&A集の作成)、③支払い業務の法制度化(高橋委員担当)である。

多摩支部だより

## 多摩支部研修会を盛大に開催

東京都産業廃棄物協会多摩支部は、平成27年6月15日(月)14時30分から、トヨタドライビングスクール東京（立川市羽衣町）において、多摩支部会・研修会を開催した。研修会終了後は、「無門庵」（立川市錦町）で懇親会を開き、支部員相互の親睦を深めた。

研修会では、東京都多摩環境事務所廃棄物対策課から渡邊昇課長、規制指導担当の田中修司課長代理、末藤祐二課長代理、若菜豊主事、審査担当の櫻井聖二課長代理、平澤俊文主任の6氏、また、八王子市資源循環部廃棄物対策課からは杉本雅彦課長、審査担当の河内剛主査、規制指導担当の原田広幸主査の3氏を招き、「多摩地区における最近の指導状況と今後の指導方針等について」をテーマに講演をいただいた。50名を超える参加者があり、大盛況のうちに終了した。

### 《支部会》

研修会に先立ち、支部会が開催され、赤石支部長から、研修会の前に開催した幹事会で、多摩支部活動組織として新たに「多摩支部法制度検討委員会」設置を提案し、了承されたことの報告があった。この委員会は、八王子市内に積替保管施設及び中間処理施設を有する産業廃棄物処理業者にもお声がけし、本年4月から中核市となった八王子市との意見交換会や勉強会、産業廃棄物処理に係る企業間の情報交換などを予定しており、多摩地域における産業廃棄物の適正処理等に貢献する役割を担うことが期待される。これにより、多摩支部の活動組織は、昨年発足した教育研修委員会とコミュニケーション委員会と合わせ3つになった。

また、今回の研修会には、多摩地域に

本社住所等を有する当協会の非会員企業の方にもお声がけし、数社の参加をいただいているとの報告があった。

委員会報告では、コミュニケーション委員会から、本年9月4日(金)～5日(土)で、処理施設見学会開催の案内があった。見学先は、当協会会員企業でもある都築鋼産(株)館林工場（群馬県邑楽郡明和町）である。

### 《研修会》



富見田氏

研修講演会は、伊藤教育研修委員会委員長の司会により開始された。

まず最初に、日報ビジネス(株)取締役 東京事業所長の富見田陽一氏によ

る「2015これからの産廃処理事業の動向と先進的な取組み事例」と題した講演で

は、今後、人口や世帯数の暫減傾向が見込まれる中、将来に備え経営資源を新事業モデルの検討・構築に、また、新たなリサイクル技術の研究・開発に投資する必要がある、新たな経営資源の活用事例について詳細な説明があった。一例を挙げると、これまでのM&Aとは明らかに違う「企業連合」のようなものが生まれつつあり、既に大手から直接受注の実績を上げていること。また、再生骨材製造者間の連携により、組合を組織し、品質安定化、安定供給が可能になったことなどが紹介された。レジュメの1コマに「勝ち残るためのキーワードは、自立と協調、そして人」というのが印象に残る。「自立」は他社にないオンリーワンのサービス・技術を目指すこと。「協調」は同業者・異業種・地域と協業していくこと。「人」は徹底した人材育成である。約一時間にわたり、大変興味深い講演会となった。



杉本課長

次に、行政による講演会は、最初に当協会高橋会長、続いて多摩環境事務所渡邊廃棄物対策課長、八王子市資源循環部杉本廃棄物対策課長からの挨拶で始まった。

高橋会長からは、行政への謝辞の後、「現在、国で廃棄物処理法の見直しの検討が開始されているが、業界としても必要な要望はきちんと上げていく。適正処理を進めていくという点では業界としてのスタンスは従前と全く変わらない。多摩支部と行政との懇談・勉強会は、多摩支部会員企業にとって貴重な交流の場と



渡邊課長

なっており、今後も引き続き発展させていきたい」旨の話があった。渡邊課長からは「都の施策方針に則り資源循環社会の構築を確実に進めていく。

また、東京オリンピック・パラリンピック開催は、東京が資源循環型社会を実現する絶好の機会である」、杉本課長からは「この4月から中核市となり、環境分野では、廃棄物処理施設の設置許可等多くの事務が東京都から移管された。これまで以上に、住民に身近な行政を進めることができるようになった。業界とも連携しながら、よりよい環境行政を目指していきたい」との話があった。

講演は、規制指導担当の田中修司課長代理から、不法投棄や不適正処理の具体例について細かな説明があった。改善命令など、行政指導に従わなかった場合、最終的には、警察による逮捕や司法による罰金や懲役刑などが待っており、排出事業者・処理業者双方の法令遵守がいか

に大事かを改めて認識した研修となった。この他、多摩環境事務所審査係から、「収集運搬業許可申請書・変更届出書様式」（平成27年4月版）等の資料提供が、また、八王子市廃棄物対策課から手続き等の説明があった。

講演終了後は、参加者が多摩環境事務所や八王子市担当者に、個別に疑問や質問等を持ち寄り確認したり、また、名刺交換するなど、最後の最後まで充実した研修会となった。

(事務局長 横手 浩次)

## デジタコ・ドラレコの活用法

(デジタルタコグラフ)

(ドライブレコーダー)

安全衛生推進委員会は、平成27年6月23日(火)15時から、東京都トラック総合会館4階会議室(新宿区四谷)において、平成27年度第1回安全衛生研修会を実施した。専門業者である矢崎エナジーシステム(株)から講師を招聘し、デジタルタコグラフ(デジタコ)・ドライブレコーダ(ドラレコ)を活用した運行管理、安全運転教育、燃費改善の手法等のポイントが、様々な活用事例を通して具体的に紹介された。参加者は55名で、関心の高いテーマであることが改めて浮き彫りとなった。

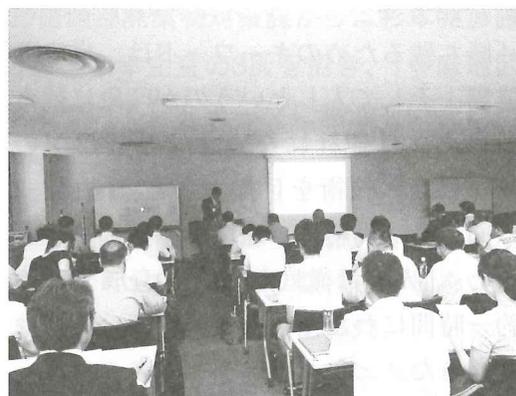
(取材 塩沢美樹)

### ●運行記録計の装備義務化拡大

国交省によると、事業用自動車の交通事故は、全体に概ね減少傾向にあるものの、近年、トラックによる交通事故件数は横ばい状態で、さらに事故発生の低減化が求められている。このため、現行の車両総重量8t以上の大型トラックに加え、平成27年4月から、同7tクラスでも運行記録計(タコグラフ)の装備が義務づけられることとなった。さらに、国は運行管理の高度化、過労運転防止など安全性向上を図る観点から、デジタル型タコグラフ(デジタコ)の普及・義務化の方針を打ち出し、ドライブレコーダ(ドラレコ)やスマートフォンとの連携など、次世代型運行記録計の普及を推進している。

安全管理や経費節減を目的に、デジタコ・ドラレコを導入する企業が増加する一方、機種が多さや費用面から導入に踏み切れない、または、導入したが効果の出し方がわからないという声も多い。

今回の研修会では「タコグラフを作り続けて50年」の矢崎グループ・矢崎エナ



研修会場

ジーシステム(株)計装事業部計装営業統括部から、阿部啓一氏(南関東計装営業部 販売第一チームリーダー)、大嶋直樹氏(南関東計装営業部 販売第一チーム主任格)、小林泰斗氏(LI推進部 マーケティングチーム)の3名を招き、同社の製品を例に、機器の概要、データの活用法、管理のコツ等に加え、同社利用者のデジタ



大嶋氏



小林氏

コ活用事例を具体的に説明いただいた。

### ●デジタコによる管理のコツ

毎日大量に得られる走行データを、全て管理することは困難だ。そこで、管理の方法として、まず何を管理するかを決め、次の3項目に沿って、実施できる頻度・内容で確実にこなせば、必ず安全や燃費につながるとのことだ。

- ①目的を決める(例;まずは全体の安全運転評価を上げたい、エコ運転を追求して燃費を向上させたい、速度オーバーのない会社になりたい等)
  - ②手段・ツールを考える(手段の例;貼り出し・面談・講習会等、ツールの例;安全運転日報・安全運転ランキング・分析ソフト等)
  - ③頻度と対象の選定(頻度の例;毎日・週に3人・月に2回等、対象選定の例;順番・抜き打ち・下位5人・営業所等)
- もうひとつのコツは、会社全体で取り組むこと。管理・教育の内容と目的を共有することで、社の方針として乗務員に伝わるのが重要とのことだ。

### 【安全教育・管理の例】

保有車両20台規模の会社を例に、具体的に説明された。いくつか挙げると、全体の安全運転評価を高めることを目的とした場合、週1回、安全運転ランキング表・走行に関するガントチャートを貼り出す。まずは各乗務員がデジタコの警告が鳴らない運転を心がけ、ランキング表やガントチャートで自身の安全運転評価を客観的に見てもらうことが狙いで、管

理者の負担は、週に10分程度だ。日々の安全運転に対して緊張感をもたせることを目的とした事例では、毎週、ランダムに乗務員1~2人を選び、出発前に最近の安全運転日報等を用いて面談を行う。3ヶ月毎に20人分の運転評価を整理し上司へ報告している。定期的な面談と報告で、緊張感と安全運転意識の向上が期待できる。この場合の管理者の負担は、週に約15分の面談と、3ヶ月ごとの報告作業に45分程度である。

### ●ドラレコ活用事例

ドラレコは事故映像記録として非常に有効であることが知られているが、うまく活用することで、乗務員も守ることができる。

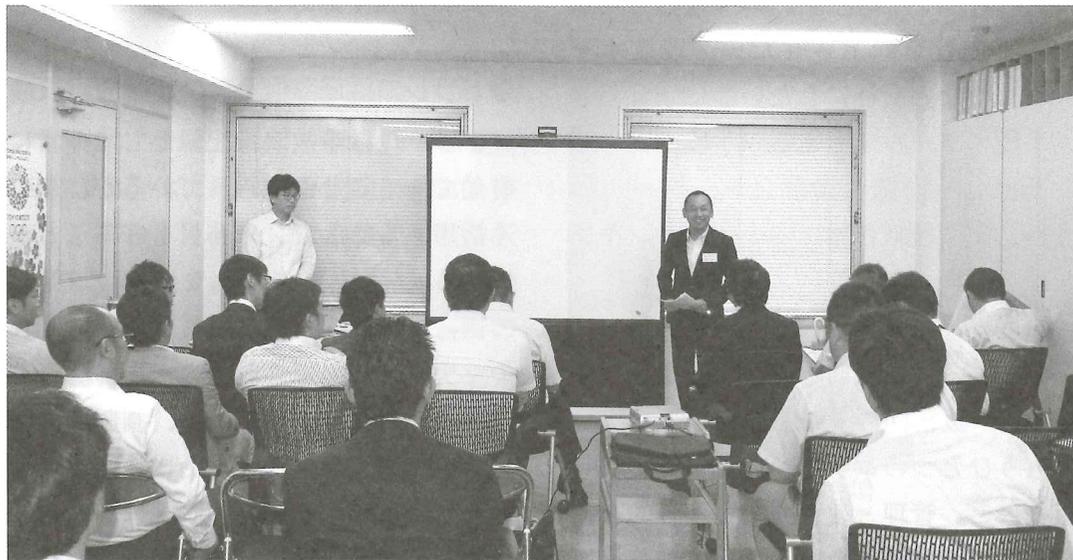
例えば、顧客から従業員の服装の乱れやマナーについてクレームがある場合に、車内の赤外線カメラにより、制服の着用やシートベルト、携帯電話、休憩態度等の確認が可能だ。顧客の設備に車両をぶつけたのでは、との問い合わせに対しては、車両後方や側面に設置したサブカメラ映像により、自車に非がなかったことを立証した事例もあるようだ。

また、危険運転の映像を整理して乗務員の休憩室で再生映像を流したところ、一般的な教材とは違い自社の映像であることから、乗務員の安全運転意識がより高まったとの活用事例も紹介された。

そのほか、矢崎エナジーシステムのドラレコ解析ソフトの機能や、車載式重量計等の関連商品の紹介もあり、参加者の興味をひいていた。

## 第3回定時総会で平成26年度事業・決算を承認 NEWS5、研修会『営業の見える化で経営改革を』を開催

青年部は、6月19日(金)14時から、協会会議室において、第3回定時総会・研修会を開催した。総会では平成26年度事業・決算報告、平成27年度事業計画・収支予算案が審議され、原案どおり承認された。研修会は2部構成で、部員への情報提供を行う『NEWS5』と、(株)NIコンサルティングの森俊彦氏による『「営業の見える化」で経営改革を』をテーマに講演が行われた。



左から講師のNIコンサルティングの森俊彦氏、森研修委員長

第3回定時総会は定刻開始され、河相幹事による開会宣言の後、相川部長が挨拶に立ち、新体制発足後、各委員会に主体性を持たせ、研修会や懇親会の内容充実を心がけて各行事を開催したところ、青年部活動への参加者が大いに増えたことについて、部員への謝意と、今後更なる青年部活動への協力依頼を述べた。

その後、相川部長が指名されて議長に就任し、岩瀬幹事より定足数が報告された結果、議長が本総会の成立を宣言し、議案の審議に入った。

平成26年度事業・収支決算報告及び監査報告、平成27年度事業計画及び収支予算案の各議案審議が行われ、全ての議案が満場一致で可決承認された。矢部幹事の閉会宣言を以って、第3回定時総会は終了した。

総会終了後、研修会が開催された。第1部は、恒例企画となった「NEWS5」で部員への情報提供が行われた。

「NEWS5」は、産業廃棄物業界を取り巻くホットな話題を提供することにより、部員が「青年部活動に参加して良かつ

た」「勉強になった」「貴重な情報を仕入れることができた」と、青年部活動に参加するメリットを感じてもらうため、研修委員会のアイデアで企画化したもの。3回目となる今回は、①排出事業者へのお願い(東産協発行のパンフレット)の説明、②建設現場従事者の産業廃棄物・汚染土壌排出管理者講習会のご案内、③優良さんばいナビのご案内、④渋谷区リサイクル条例の説明、⑤所属企業紹介(アースサポート(株))、の5つのテーマで情報が提供された。

第2部は、村松研修副委員長の企画による講演会を開催した。(株)NIコンサルティングの森俊彦氏を招き『「営業の見える化」で経営改革を』をテーマとした。

NIコンサルティングは全国3,600社以上の企業を顧問先として抱え、青年部所属企業数社とも契約しているとのこと。経営コンサルティングのプロフェッショナルとして、ブラックボックス化しがちな営業の「可視化」という視点で、大変興味深い講演だった。

森氏は冒頭、人口減少による価値観の変換、すなわちパラダイムシフトを行う必要性を説いた。人口減少や価値観の多様化による時代の変化から、これからの企業は少人数経営で、より高い付加価値を生み出せる企業にならなければならないと説明し、それに見合った営業手法について、かつての高度経済成長の時代のような、営業が頑張れば売れた時代は終焉したとし、新しい時代の営業戦略を理論的に解説した。

森氏は、それを営業の「見える化」と表現し、3つの「S」の手法の導入の必



講師の森氏

要性を説いた。3つの「S」とは、①戦略ストーリー(戦略の見える化)、②仕組み(業務プロセスの標準化)、③仕掛け(ITシステム活用による業務改善)の略称である。この3つの「S」を営業に導入し、営業を「見える化」することは、これからの時代の要請であると語った。NIコンサルティングでは、その支援をしており、成功事例や同社が提供するソフトについても丁寧な説明があった。

約1時間半が短く感じられるような、大変内容の濃い講演だった。特に、「やる気があるから行動するのではなく、行動するからやる気が出る」という言葉には、脳科学の視点からの説明もあり、大変説得力を持って心に響いた。参加者には経営者もいれば営業マンもいて、全ての参加者にとって大変勉強になる貴重な研修会であったと感じた。

相川部長体制の充実した研修会や親睦行事により、部員の参加者が益々増えている。2年目となる相川部長体制の、よりパワーアップした活動で、当青年部がさらに活発化していくことを期待させる、総会及び研修会であった。

(株)リスト 松嶋 寿延 記



## 「2015 NEW 環境展」活動報告

東京都産業廃棄物協会女性部は、平成27年5月26日～29日「2015NEW環境展」に(株)日報ビジネス様のご厚意で初めて出展しました。



手作り感満載の展示

「全国に東京都産業廃棄物協会女性部の活動状況を情報発信し、ネットワークを拡大する」というコンセプトで企画を行いました。

中央の展示スペースには、3月に開催された女性部の10周年記念祝賀会の集合写真や女性部員数の推移とこれまでの行事年表を掲示しました。左右の展示スペースでは、これまでの活動報告や現在4つあるチームの活動紹介、関東地域協議会女性部会の紹介を行いました。活動写真が盛りだくさんで、笑顔に囲まれた展示となりました。机には部員企業のパンフレット、活動時に作成した工作物や廃油を使ったキャンドルレシピの展示を行い、自由にお取りいただけるようにしました。

環境展出展は初の試みということで、手作り感満載の展示となり、お客様がいらっしゃるか不安な面もありましたが、



ご来場者の質問に笑顔で対応

展示を作り上げた達成感や環境展開催中の多くの来場者の皆様方のお声から刺激のある4日間となりました。

予想以上のお客様のご来場に女性部一



「関東地域協議会女性部会」を紹介  
～群馬県女性部会役員もご来場～

同大変驚いております。

お客様から数多くあったご質問としては、「廃棄物処理に困っているが、どこに依頼したらいいか」と問い合わせをいただきました。準備不足もあり、数多くの会員企業から、おすすめすることがなかなか難しかったため、まず部員企業からご案内する形をとりました。今回は間に合いませんでしたが、会員企業の一覧表やパンフレットを業種別に並べるなど工夫をして、各企業の営業につながれると思いました。



アテンド担当は部員で分担

今回の出展により産業廃棄物の処理に困っている企業が多くあることを知り、このようなイベントで営業活動が可能なることを知ることができました。女性部だけでなく、東産協をご案内することにより、廃棄物処理業界全体を広く知っていただく貴重なイベントとなりました。

今回の出展にあたっては、東産協女性部だけでなく、関東地域協議会女性部会に参加している、群馬県・埼玉県・千葉県的女性部会、また交流したことがある沖縄県的女性部の紹介をしたところ、全国の産業廃棄物業協会の皆様から、「ぜひ自分の県でも女性部を立ち上げたい」「女性が増えてきたので、女性部を発足させたい」との力強いお言葉を頂戴する

ことができました。「発足は難しいが、総会で報告を行う」など前向きな意見も多数いただくことができました。福井県の産業廃棄物協会では今年女性部が発足し、現在4社が入部しているそうです。ぜひ、今後交流を図っていただきたいと思います。産業廃棄物業界で働く女性の役割を改めて考えさせられ、貴重な経験となりました。

保護者同伴で行った子供向けの環境教育活動や廃油を使ったキャンドルづくりにも興味をもたれた方がいらっしゃいました。大学の先生や公共施設のご担当者様から、「大学生が行っている環境教育の刺激になってほしい」「可能であれば出張で環境教育を行ってほしい。ぜひ女性部で施設見学にも来てください」等々ありがたいお話も頂戴することができました。今後の女性部の研修や環境教育への足掛かりとなるのではと今からわくわくしています。

末筆ながら、出展するにあたりご協力いただきました皆様方には各方面でサポートいただきまして感謝申し上げます。また多くのお客様にご来場いただきましたこと、改めて御礼申し上げます。

今後もこのような機会がありましたら、何卒よろしく願い申し上げます。

(成友興業(株) 月澤麻衣 記)



受付にて…ハイ!チーズ♪



## 邪馬台国連合とヤマト王権が激突？

魏志倭人伝+考古学では決まらない

魏志倭人伝を読む限りでは、邪馬台国は北部九州にありそうだが、最近の考古学者の多数は邪馬台国畿内説を支持している。しかし、考古学だけでは決め手に欠ける。そこで、中国の文献（魏志など）だけではなく我が日本の文献（古事記、日本書紀など）も少しは信用してはどうかという意見も多くなってきている。魏志倭人伝という倭国＝邪馬台国連合は北部九州にあり、それとは別に、同じ3世紀中頃には奈良の大和地方＝纏向を中心とした畿内の勢力が盟主となっているヤマト王権の広域連合が拡大しつつあったとみればよく、ヤマト広域連合の拡大状況は古事記・日本書紀（記紀）の記事で検証できるのではないかという考え方などだ。

**3世紀中頃は2つの中心が！?** 図は、魏など中国の王権との交渉の窓口となった北部九州の邪馬台国連合と、考古学的にははっきりしている畿内を中心とした勢力で、後に天皇家につながる広域連合＝ヤマト王権の2つの中心があったとする考えを示したものだ（八幡和郎「最終解答日本古代史」97頁）。天皇家の先祖が大和で有力首長として基盤を築いてから、3世紀後半、実在が確かとされる崇神天皇の時代に吉備や出雲を従え、4世紀初頭のヤマトタケル（景行天皇の時代）の頃には、九州の東側を勢力下に入れ、4世紀の末（神功皇后の頃）には全九州を従え（したがって、邪馬台国連合は滅亡）、朝鮮半島で高句麗と対峙、8



世紀の奈良時代には半島から手を引き南東北までを版図とした日本国が描かれている。かなりスッキリするが、日本書紀などの記事からどこまでが歴史的事実として理解してよいか、これがまた難問なのだ。

**ヤマト王権、邪馬台国に敗れる** 記紀には、天皇家＝ヤマト王権が版図を広げていく過程が記述されており、歴史事実がかなり反映されていると考える研究者も増えてきている。その一人、若井敏明氏によると、九州地方、特に北部九州が大和の支配下に入るのはかなり遅いという。記紀によれば、大和政権＝ヤマト王権の九州征圧過程には二つの段階がある。第一段階が4世紀初頭と推定される景行天皇による遠征で、大和政権軍が九州東

部に上陸し、東海岸を南下して襲[その]国を制圧し、西行して熊の国を治めたという。襲の国は宮崎地方、熊の国は熊本地方と考えられる。さらに景行天皇は北上するが、筑後川を超えることが出来ず、御木（みけ＝三毛＝三池・大牟田）から八女に至り、的（いくは＝浮羽）を通り瀬戸内側に出て帰還している。邪馬台国の候補地である山門に踏み込まずに帰還していることから、このときの戦いでは、大和政権は邪馬台国連合に敗れたとみるべきだという。ヤマトが敗れた理由として、朝鮮半島からの鉄の入手ルートを邪馬台国連合が押さえていたため、当時の最先端の武器ともなる鉄資源を豊富に入手していたことがあげられる。

**ヤマト王権の雪辱** 大和政権の第二段階の九州遠征は4世紀後半、仲哀[ちゅうあい]天皇によるものだ。日本書紀にはかなり具体的に書かれており、事態は大和政権側に有利に展開し、関門海峡に至ると、玄界灘沿岸の岡（遠賀川流域）と伊都（糸島地方）の豪族が相次いで帰順し、彼らの国の所有する鏡をはじめとする神宝を入手したのだ。大和政権は彼らを各々、岡県主[あがたぬし]、伊都県主として任じたという。ところが、戦端を開いてすぐに仲哀天皇は戦死してしまう。戦死した天皇は仲哀天皇のみで、これ以降、天皇が戦場に出ることはなくなった。天皇の死後、代わって神功皇后が有明海沿岸の邪馬台国連合勢力の討伐に乗り出し、大和政権軍は朝倉市の甘木地域を本拠地とする羽白熊鷲と山門の田油津姫[たぶらつひめ]の軍勢を打ち破り、北部九州を平定したのだ。このとき初めてヤマト王権が北部九州を制圧し半島を経由し中国との交渉が出来る状況になったのだから、魏志倭人伝に言う倭国＝邪馬台

国連合は畿内大和を中心とするヤマト王権であるはずがない……だから邪馬台国連合・九州説が正しいのだという。しかし、神功皇后の実在性を疑う学者も多い。「カラ」の遺跡からみると ヤマト王権が北部九州を制圧したのが4世紀後半だったのか、それを間接的に証明しそうなものが、半島南部の対日本の窓口であった「カラ」の遺跡だ。「カラ」とは、本来朝鮮の三国時代、百濟[くだら]や新羅[しらぎ]に併合されずに残った小国群をさし、「加羅」と表記された。今は「伽耶」[かや]などと書かれ、日本書紀で使われていた、年配者にはなじみの「任那」[みまな]と呼ばれた地域だ。その伽耶地域の2～3世紀の墳墓群から出土した倭系遺物には、弥生後期に北部九州で製作されたとみられる鏡や中広型銅矛などが多いという。ところが、4世紀代の墳墓から出土する倭系遺物は、いずれも畿内のヤマトを中心に分布するものになっている。このことは、半島の伽耶地域との交流の当事者が、3世紀の末頃に、北部九州勢力からヤマト王権の勢力へと急激に変化したことを意味する。

こうなると、邪馬台国、ヤマト王権併存説も真実味を帯びてくる。さらには、日本書紀など日本の古代文献史料の歴史的信憑性もあながち否定できないということになる。神話であり歴史を反映していないともいわれた書紀なども手掛かりになり得るとなれば、古代史は飛躍的に面白くなり、謎解きは一層にぎやかになる。  
(古川 芳久)

\*『邪馬台国の滅亡』若井敏明(2010年吉川弘文館：歴史文化ライブラリー)

\*『大王から天皇へ』熊谷公男(2008年講談社学術文庫：日本の歴史03)

投稿・TTT会（東京都産業廃棄物協会トライアスロンチーム）  
「2015五島長崎国際トライアスロン大会」



右からチーム代表・チームメイト・森

長崎の西海に大小140の島が連なる五島列島を舞台に、毎年6月に開催される「五島長崎国際トライアスロン大会」へTTT会として参加してきました。

大会の会場となる五島は、美しい海と島の自然は勿論の事、歴史的にも魅力ある島です。また、島の畜産の五島牛やあご出汁の五島うどんが美味しく、椿油の生産地としても歴史が古く、かつては国内生産の3分の1を占めていました。

そして、トライアスリートにとっての五島は、日本のアイアンマンの聖地として過去9年に渡り米国ハワイ州でのアイアンマン・ワールドチャンピオン・シップへ日本からの代表選手を送り込み、数々の伝説を生んだ大会として知られています。私たちTTT会のコーチも、そのレジェンドの一人として当時活躍していました。

現在は、国際トライアスロン連合

(ITU) のロングディスタンス世界選手権の日本代表を選考する大会となり、来年アメリカのオクラホマ州で開催される2016年ITUワールド・チャンピオン・シップの日本代表権が、この五島で決まります。

今年50歳になった私は、50代として最初の大会となります。新たな年代別カテゴリーで何とか良い結果を出して、6年連続の

代表に選ばればとマイペースながら準備をしてきました。実は、昨夏以来長引いている左足の故障と、今春のバイク転倒による肩、手首の故障で、トレーニングの質を大きく変えてきました。今年は冬～春の間にマラソン大会に一度も出場できず、走り込みもできていなかったもので、3月の時点で体重が例年の10%以上増加、スピードは20%以上遅くなっていました。よって、まずはダイエットから。早朝ジョギングによる低血糖トレーニングで減量しました。その後、体のケアを優先して、距離と強度にメリハリを付けて、効率良いフォームを重視したメニューに取り組んできました。週末の日曜日には若者アスリートの厳しい練習の中に入れてもらい、朝から晩まで長時間鍛える事でメンタル強化をしました。今年の準備期間は、3月～5月の約3ヶ月間と例年よりかなり短い期間でしたが、仕

上がりは上々でした。

二年前の大会では、バイクコース序盤でギアが壊れるメカトラブルという事態を乗り越え、昨年は大会直前に咳が止まらない流行風邪をひくという状況を乗り越えてきたので大抵の事では動じませんが、今年は故障によるトレーニング不足でどのような結果になるのか若干の不安もありました。とにかくスタートしたら耐えて、耐えて、最後まで諦めずに耐えて、精一杯出し切るしかないのがトライアスロンなので、本番に集中するのみと気持ちを切り替えました。

大会前日、五島入りし選手登録をしました。今年のレースナンバーは「1095番」。縁起の良い語呂合わせはないものか考えてみました。「東急号!」「一億GO!」「ジュークで郷!」いろいろ考えましたがパツとしないので縁起担ぎは忘れることにしました。

大会当日、5時起きで朝食を戴いて貸切バスでスイム会場となる港へいざ出発。天気は曇りで波も少なくコースのコンディションは上々。スイムのスタート位置取りは、前の方に陣取り、毎年スイムでトップ10入りする仲間の近くでスタートの合図を待ちました。いよいよ長い一日が始まる直前。全員が緊張し集中する瞬間です。そして、ホーンの音と同時に一斉にスタート。今年のスイムは集団に巻き込まれることやバトルが無くいい感じで泳げて、総合12位でスイムフィニッシュしました。この時点で年代別トップ。

◎大会結果（昨年と今年）

	年代別 カテゴリー	Swim 2km	Bike 124km	Run 28km	Total 154km	年代別 順位	総合 順位
2015	50-54	0:32:23	4:20:52	2:31:03	7:24:18	4	32
2014	45-49	0:32:42	4:08:10	2:31:55	7:12:47	6	36



フィニッシュゲート前にて

バイクでは、五島大会の特長となっている激しいアップダウンが連続し厳しかったですが、過去の経験も生かされて、ペース配分や栄養補給など工夫して

持てる力を出し切りました。しかし、練習不足による影響が100キロ過ぎた辺りから出始めた事で昨年より12分以上も遅いバイクフィニッシュとなりました。この時点で年代別順位は1位から4位に後退。最後のランは、島の皆さんの「がんばれ〜!」の熱い声援に支えられて、チームの皆とすれ違う度に励まし合い、最後まであきらめずに精一杯走り切る事ができ、抜くことも抜かれることも無く、結果は4位。何とか来年の世界選手権の代表枠に入ることができました。

大会翌日は、有志の選手たちでコースに散らかったゴミ拾いのボランティアを手伝いました。祭りの後の様な気分です。全国から集まった仲間たちや地元高校の美人先生達とボランティアを楽しみ、一年後の再会を誓い合いました。

最後になりますが、この誌面をかりまして、五島の皆様、大会関係者とボランティアの皆様に深く感謝いたします。ほんとうにありがとうございました。

(株)ハチオウ 森 雅裕 記

## 年々ひどくなる日中の暑さ！ 当社の熱中症対策について

加藤商事(株)

当社では、近年の猛暑における暑さ対策を最重要課題ととらえ、各部署の班長クラスで行われる事故防止対策委員会でも毎年の対策を協議してきました。

実質的な対策として、帽子を支給し、できる限り被るよう指導したり、毎日クーラージャグタンクに粉末スポーツ飲料を溶かして、水筒に入れ携帯するよう指導するなど、試行錯誤を繰り返しておりました。しかしながら、猛暑は年々ひどくなるばかりで、自社で出来る対策には限界を感じていました。

そんな時、冷感スカーフの「マジクール」を知り、現在では収集現場作業にあたる社員全員に携帯・着用するよう指導しています。

「冷感スカーフ」といっても様々な形状・素材のものがあるため、数社の製品を試しに購入し、試用したところ、

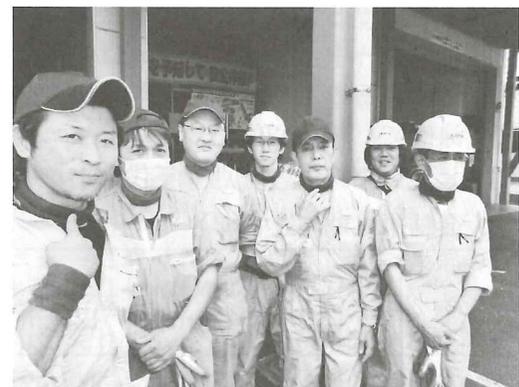
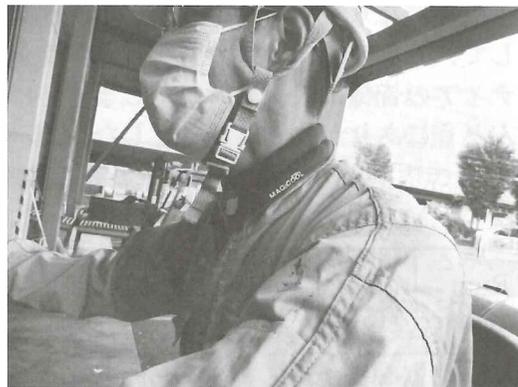
「冷たさが全然違う」

「肌触りが気持ちいい」  
「すぐに膨らむから使いやすい」  
「作業の邪魔にならない手軽さがいい」と、社員の中で一番評価が高かったマジクールを採用しました。

吸水させるだけで冷たさを感じ、繰り返し使用することが出来るため、経済的かつ環境にも優しいエコな商品であると従業員も喜んでいきます。

マジクールのメーカーのHPを見ますと、安全性や性能の試験を徹底的に行っていて、自治体や大手企業への採用も相当数あるようです。10年前から販売しており、冷感スカーフのパイオニアのようでした。

現場作業にあたる社員だけでなく、外出の多い営業マンも積極的に着用し、今では「夏はマジクール」が当社の定番になっています。



## 身近な「ヒヤリ・ハット」事例

Part 88

	何処で	何をしている時	何がどうした	改善すべき事項
1	一般道路で	走行中	片側3車線の左端を走行中、右折しようとした右側のトレーラーが大きく左に膨らんできたので接触しそうになった。	周囲にいる車両の種類を把握し、走行特性を予測しておく。
2	一般道路で	走行中	交差点で曲がる時、歩行者信号が赤なのに渡ってきた人と接触しそうになった。	交差点に進入する時は一時停止し、周囲の確認をしっかりとってゆっくり動く。
3	一般道路で	信号待ち停車中	信号待ち停車中、左後方のガードレールと車両の間に自転車がいて、発進する時に自転車と接触しそうになった。	停車から発進時は、前後左右を必ず確認してからゆっくり発進する。
4	一般道路で	二車線道路の左側を走行中	右側の車が右のウィンカーを出しているのに左に来たのでヒヤリとした。	周りの車の動きをよく見て、確認しながら運転する。
5	一般道路で	走行中	自分の前を走っていたトラックの荷台から物が落ちてきて、自車に当たりそうになった。	車間距離を空けて走行する。
6	高速道路で	料金所通過中	高速道路出口の料金所のETCレーンで、前車が急ブレーキで止まったので追突しそうになった。	ETCレーンには20km/h以下で進入する。レーンでは車間を十分に取り、速度も十分に落とし通過する。
7	現場で	積み込み時	重量物を積み込む時、荷台に乗せようとしたら手元が滑り、物を地面に落として、危うく自分の足の上に落ちそうになった。	重量物を積み込む時は無理をせず、滑りにくい手袋や道具などを利用する。
8	現場で	現場より退場時(バック)	降車して一度目視で確認後に徐行してバックしている際、大声で「止まれ」の声がして止まると、歩道から自転車が来ていて巻き込みそうになった。	歩道をまたぐ時は、誘導なしでは絶対にバックしない。

「ヒヤリ・ハット」の事例がございましたら、協会までお寄せ下さい。

# 会員情報

## 〈代表者・名称・住所等変更のお知らせ〉

- ・掲載は届出順
- ・社名下のカッコ内は会員番号

### (有)調布清掃

(No4110)

【新社名】株式会社 調布清掃

\* 有限会社から株式会社に組織変更

【旧住所】〒182-0012 東京都調布市深大寺東町1-34-8



【新住所】〒182-0012 東京都調布市深大寺東町5-8-1

### 羽田興産(株)

(No6071)

【旧代表者名】代表取締役 五十嵐 喜武



【新代表者名】代表取締役 五十嵐 喜将

### 日盛運輸(株)

(No5070)

【旧代表者名】代表取締役 宇田川 猛彦



【新代表者名】代表取締役 細井 幸一

### 都築鋼産(株)

(No4027)

【旧代表者名】代表取締役社長 藤城 望



【新代表者名】代表取締役社長 都築 基

### コトブキ環境(株)

(No2160)

【旧住所】〒136-0082 東京都江東区新木場2-11-3



【新住所】〒135-0053 東京都江東区辰巳3-18-17

### 松浦商事(株)

(No7002)

【旧代表者名】代表取締役 松浦 敏之



【新代表者名】代表取締役 松浦 孝治

## ～協会の主な今後の日程～

(平成27年7月1日現在)

月	日	曜日	行事予定	備考
7	3	金	中間処理委員会 15:00～	協会会議室
	8	水	広報委員会 10:00～	協会会議室
			常任理事会 13:30～/第20回理事会 14:30～	協会会議室
	14	火	全産廃連;理事会 13:30～	全産廃連会議室
			医療廃棄物委員会 15:00～	協会会議室
	15	水	青年部 幹事会 15:00～	協会会議室
	16	木	女性部 幹事会 13:30～/勉強会 15:00～	協会会議室
	24	金	全産廃連青年部協議会 第16回通常総会	青山ダイヤモンドホール
	27	月	法制度検討委員会 15:00～	協会会議室
	28	火	新入会員と協会役員との懇談会 11:00～/常任理事会 13:30～	協会会議室
30	木	中間処理委員会 焼却分科会「勉強会」 15:00～	協会会議室	
31	金	全産廃連;全国正会員事務局責任者会議 13:30～	アジュール竹芝	
8	3	月	関プロ青年部 幹事会 13:00～15:00	協会会議室
	5	水	中間処理委員会 破碎・圧縮分科会 13:30～	高俊興業(株)・(株)アルフォ施設
	7	金	広報委員会 10:00～	協会会議室
	19	水	(青年部・予定日)	協会会議室

### 表紙の言葉

●今月の写真：ウミイグアナ [学名：Amblyrhynchus cristatus 英名：galapagos marine iguana (ガラパゴスマリンイグアナ)]

●撮影者：阿部 秀行 氏 ●撮影地：エクアドル (ガラパゴス諸島)

●撮影者コメント：体長は120cm～150cmです。赤道直下にあるガラパゴス諸島は、「ダーウィンの進化論」で有名な島で、独自に進化をした動植物の宝庫でもあります。ウミイグアナはワシントン条約の絶滅危惧種に分類されています。ウミイグアナは、オカイグアナの食生を進化させ、この種族で唯一海に潜って海藻を主食することで生き延びています。岩礁海岸に生息し、群れを形成して生活しています。ガラパゴス諸島周辺は南極からの寒流が流れ込み水温が低いため、海から上がると日光浴をして体温を上げます。体色は黒っぽく、体温を上げるのに役立っています。見た目は「ゴジラ」のような容姿をしていますが、小ぶりで可愛く感じます。一方、オカイグアナは、頭部が赤や黄色みを帯びた暗褐色で、体長は変わりませんが、胴回りが太く主にサボテンの葉等を食べます。

**事務局だより** 今年は全国的に雨が  
多い。梅雨前線もエルニーニョ現象も当方にとっては問題じゃない。問題なのは、干した洗濯物が半乾きで水臭いことだ。自然の営みなるが故、雨を憎んでも解決にならない。歌に、「雨が止んだらおわかれなのね・・・」とか、「雨に歌えば」とかがあり、雨も見方によっては、人の心を弾ませてくれる。

過日、職場近くの「ちゃんぽんや」に入った。基本的には、週に一度行っている店だ。いつもはカウンター席とか奥のテーブルだが、今回は入り口近くの席だ。何気なくレジのほうを見上げたら、貼紙が貼ってあった。

よく見ると、こんな文言だ。「真剣だと、知恵が出る。中途半端だと、愚痴が出る。いいかげんだと、言い訳ばかり。」もう、ちゃんぽんを食らっている場合ではない。自ずと、店スタッフに目線がいつてしまう。全席40席以上あると思われるが、料理をつくる人、それを運ぶ人、食べる人、貼紙を見たせいか、全体がスムーズに流れているような気がした。

皆、十分業務に慣れている人のようだ。こうした人達も最初はこうじゃなかったはずだ。教える人がいて、教えられる方は、自分なりに考え、習熟したのだろう。

名将山本五十六（海軍軍人）の名言に、「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。」というのがある。この言葉には、次のような続きがある。「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。やっている姿を感謝で見守って、信

頼せねば、人は実らず。」ここまでくるともう耳が痛い。ほかに、日独伊三国軍事同盟の締結に際して、「陸軍との争いを避けたいから同盟を結んだというが、内乱では国は滅びない。戦争では国が滅びる。内乱を避けるために、戦争に賭けるとは、主客転倒もはなはだしい。」また、日米開戦後の見通しについて、当時の近衛文相首相から聞かれた時の言葉に「是非やれといわれれば、初めの半年や一年は、ずいぶん暴れてごらんに入れます。しかし二年、三年となつては、全く確信は持てません。三国同盟ができたのは致し方ないが、かくなつた上は、日米戦争の回避に極力ご努力を願いたいと思います。」歴史に残る名將は大したものだ。多くの凡人には到底真似ができない。

最後に、人の才能について、こう言っている。「中才は肩書によって現はれ、大才は肩書を邪魔にし、小才は肩書を汚す。」ここまでくると、もう身動きができない。

フォークソングの神様といわれる岡林信康の歌に「山谷ブルース」というのがある。「(途中から) 工事終わればそれっきり。お払い箱のおれ達さ。いいさいいさ山谷の立ちん坊。世間うらんで何になる。人は山谷を悪く言う。だけどおれ達いなくなりゃ、ビルもビルも道路も出来やしねえ。誰も分かっちゃくれねえか。だけどおれ達や泣かないぜ。働くおれ達の世の中が、きつときつと来るさそのうちに。その日は泣こうぜうれし泣き。」こういう歌を聴くと、とても元気がでる。

(横手)

## 編集後記

一昔前の梅雨のしとしと降る雨とは趣が異なっているようなこの頃です。東京では今のところ、豪雨による被害は発生していませんが、全国的にはここ数年の傾向と同じく、傾斜地での地滑りによる大きな災害が発生しています。都内でも三多摩には法面の宅地も多いようです。集中豪雨が差し迫った場合には、先ずは避難すべきでしょうか。

全国の空き家は、なんと800万戸もあるそうです。次のような計算をしても意味はありませんが、全ての世帯が4名構成であったとしたら、3,000万戸の家屋で居住が賄える勘定、800万戸はその27%となります。これは個人所有物件で、社会インフラとは言えませんが、

何となく、もったいないような印象を持ちますが、皆様にはどのようにお感じになられますか。

土砂災害防止、空き家対策にわが業界が貢献できないでしょうか。考えてみる価値はあるような気がします。紙マニフェストの頒布状況もおそらく排出量の減少に伴っているようで芳しくありません。また、環境省からの発信の中に3R→2Rの表現も出てきています。減少した一つのRはリサイクルです。これまでの延長線上での業務改善だけを考えるだけでは不十分かもしれません。

皆さんと知恵を出し合って、業界の将来と向き合う時期にいよいよ突入したのかもしれない。

(乙顔)

## とうきょうさんぱい 2015 第299号

発行人 高橋 俊 美  
企画・編集 広報 委員 会  
発行所 一般社団法人 東京都産業廃棄物協会  
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-9-13  
柿沼ビル7F  
TEL 03(5283)5455(代表) FAX 03(5283)5592  
http://www.tosankyo.or.jp/  
E-mail; info@tosankyo.or.jp  
印刷 皆川美術印刷株式会社

## 入会のご案内

### ～協会組織の充実・強化に向けて～

当協会は、産業廃棄物の適正な処理及び再生利用等についての調査研究、普及、研修並びに指導等の事業を通じ、生活環境の保全及び公衆衛生の向上並びに資源の効率的活用を図り、もって都民の福祉の向上に寄与することを目的として設立されており、収集運搬及び処分業の許可を受けている企業等と、協会の目的に賛同している賛助会員で構成されている法人であります。

産業廃棄物処理業界が社会の要請に的確に応えていくためには、会員相互が連携を図り組織強化に努めることが重要であります。

つきましては、貴社におかれましても当協会にぜひご参加いただき、協会組織としてのスケールメリットを生かした事業活動や信用力を享受されまして、大いにご活躍されますよう入会のご案内を申し上げます。

### ◆ 入会の申し込み方法

入会につきましては、入会申込書を提出していただくこととなりますので、下記の協会事務局までご連絡いただければ入会申込書をお送りいたします。

 一般社団法人 東京都産業廃棄物協会

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-9-13 柿沼ビル7F  
TEL (03) 5283-5455 FAX (03) 5283-5592  
http://www.tosankyo.or.jp/

# 廃木材よ…再びよみがえれ！！

廃木材には「マテリアルリサイクル」により与えられる使命がまだあります。



廃木材

破碎→異物除去  
→成型→仕上



不要となった  
E・V・Aボードは  
再び原材料として使用

## 東京ボードグループ マテリアルリサイクル システム



置き床・家具等  
に使用



パーティクルボード  
「E・V・Aボード」



### 廃木材の利活用、このままでいいのでしょうか？

現在、廃木材の利活用について議論される際に、常に話題の中心になるのがバイオマス発電を中心とした「エネルギー利用」です。再利用することが出来ない廃棄物をエネルギーに還元することは非常に有効な活用法であると言えます。

しかし、「エネルギー利用」する前に、今一度考え直して下さい。

その廃木材は「マテリアルリサイクル」が出来るのではないのでしょうか？ 私達東京ボードグループは皆様とともに「マテリアルリサイクル」の手助けをさせていただきます。そして共にCO<sub>2</sub>削減を図り、地球環境をより良いものへと改善していきましょう！ 木々に永遠の命を与えたい…。それが東京ボードグループの使命です！！



私達は  
地球温暖化防止に  
全力で取り組みます

#### 東京ボード工業株式会社

本社 〒136-0082 東京都江東区新木場2-11-1 TEL:03-3522-4138 FAX:03-3522-4137  
新木場工場 〒136-0082 東京都江東区新木場2-12-5 TEL:03-3522-1524 FAX:03-3522-1525  
埼玉工場 〒340-0835 埼玉県八潮市浮塚100番地 TEL:048-996-4541 FAX:048-996-4562

#### 横浜エコロジー株式会社

〒236-0003 神奈川県横浜市金沢区幸浦1-4-2 TEL:045-778-1153 FAX:045-778-1154

#### ティー・ビー・ロジスティクス株式会社

〒340-0835 埼玉県八潮市浮塚100番地 TEL:048-994-1311 FAX:048-994-1315

#### TB関西物流株式会社

〒630-8452 奈良県奈良市北之庄西町1-6-11 TEL:0742-50-6222 FAX:0742-50-6667